

50.このように主は、かれを選び正義の徒の一人となされた。

51.不信心者は警告を聞く時、その（物凄い）目付きで、あなたを凡んど倒れんばかりにする。かれらは言う。「本当にかれは憑かれた者です。」

52.だが、この（クルアーン）こそは、万有のための訓戒に外ならない。

SURA 69.真実章〔アル・ハーツカ〕

慈悲あまねく慈愛深きアッラーの御名において。

1.ヌーン。筆に誓けて、また書いたものにおいて誓う。

2.主の恩恵において、あなたは間違いではない。

3.いや、本当にあなたには、尽きない報奨があろう。

4.本当にあなたは、崇高な徳性を備えている。

5.やがてあなたは見よう、かれらもまた見るであろう。

6.あなたがたの誰が間違いであるかを。

7.本当にあなたの主は、道から迷い去った者を、最もよく知っておられ、また導かれている者を最もよく知り尽される方である。

8.それであなたは（真理を）否認する者に従ってはならない。

9.かれらの願いは、あなたが歩・寄ることで、そうなればかれらも妥協したいのである。

10.あなたは、卑劣な誓いをたてるどんな者にも屈従してはならない。

11.中傷し、悪口を言い歩く者、

12.善事を妨げ、掟に背く罪深い者、

13.乱暴（残虐）な者、その外素性の卑しい者、

14.富と（多くの）子女を持っているために（そうである、これらの者に従ってはならない）。

15.かれにわが印が読唱されると、「それは昔の物語です。」と言う。

16.やがてわれは、鼻の上に焼印を押すであろう。

17.本当にわれは、（果樹）園の持ち主を試・たように、かれらを試・た。かれらが、早朝にそれ（果物）を収穫することを誓った時に、

18.（アッラーの御望・ならば）と、条件を付けることをしなかった。

19.それでかれらが眠っている間に、あなたの主からの天罰がそれを襲った。

20.それで朝には、それは摘・取られたようになった。

- 21.早朝かれらは粟いに叫んだ。
- 22.「もし収穫するのならあなたがたの畑に急ぎましょう。」
- 23.そこでかれらは低声に囁き合って出かけた。
- 24.「今日は一人の貧乏人も、あの（果樹園）に入らせてはなりません。」
- 25.かれらは強く心に決めて、朝早く出て行った。
- 26.だがかれらがそれを見た時、言った。「わたしたちは、道を間違えている。」
- 27.いや、わたしたちは（収穫物を）奪われた。」
- 28.かれらの中、すこし穏やかな一人が言った。「あなたがたはどうして（主を）讃えないのかと、わたしが言ったのに。」
- 29.かれらは、「わたしたちの主を讃える。本当にわたしたちは不義でありました。」と言った。
- 30.そこでかれらは、粟いに責め合い始めた。
- 31.かれらは言った。「ああ悲しい、わたしたちは本当に横柄でした。」
- 32.主はこれに代る、更に良い（果樹園）を与えられるかもしれない。本当にわたしたちは、（悔悟して）主に嘆願します。」
- 33.このようなものが、（現世の）罰である。だが来世の懲罰は更に大きなものである。もしかれらに分っていたならば。
- 34.本当にアッラーを畏れる者に対しては、主の御許に喜びの楽園があろう。
- 35.われは信心深い者たちを、罪人のように扱うとでもいうのか。
- 36.あなたがたはどうしたのか。あなたがたはどう判断するのか。
- 37.それともあなたがたには、学ぶに足る啓典があるのか。
- 38.あなたがたが選ぶものは、何でもその啓典の中にあるのか。
- 39.それともあなたがたは、審判の日まで有効な誓約をわれと結んだのか。あなたがたが思慮分別することは、確かにあなたがたのものになるのか。
- 40.（ムハンマドよ）かれらに問え。「かれらの誰がそれを保証するのですか。」
- 41.または、かれらは（主に）配するものがあるのか。かれらが正しいのなら、その配するものを連れて来させなさい。
- 42.脛が、現わにされる日（を思いなさい）。かれらはサジダするよう求められる。だがかれらには出来ないであろう。

- 43.かれらは目を伏せ、屈辱を被るであろう。サジダするよう、確かにかれらは呼びかけられていた。その時五体満足なのに（拒否した）。
- 44.そこでこの御言葉（クルアーン）を虚偽であるとする者をわれに任せよ。われはかれらが気付かない方面から、一步一步（墮落に）導き、
- 45.かれらを猶予するであろう。本当にわれの計略は強く確かである。
- 46.それともあなたがかれらに報酬を求め、それでかれらは負担を課せられたのか。
- 47.また幽玄界がかれらの手元にあり、それでかれらは（それを）書き下すことが出来るのか。
- 48.だから忍耐して、あなたの主の命令を待て。魚の友のようであってはならない。苦しきの余り（かれが）叫んだ時（のように）。
- 49.主からの恩恵がかれに達しなかったならば、かれは罪を負わされ、不面目に不毛の地に捨てられたであろう。
- 50.このように主は、かれを選び正義の徒の一人となされた。
- 51.不信心者は警告を聞く時、その（物凄い）目付きで、あなたを凡んど倒れんばかりにする。かれらは言う。「本当にかれは憑かれた者です。」
- 52.だが、この（クルアーン）こそは、万有のための訓戒に外ならない。

SURA 70.階段章〔アル・マアールージュ〕

慈悲あまねく慈愛深きアッラーの御名において。

- 1.或る者が、下るべき懲罰に就いて問う。
- 2.不信心者は、それを防ぐことは出来ない。
- 3.階段の主、アッラーから（の懲罰）である。
- 4.天使たちや聖霊（大天使ジブリール）は、一日にして、かれの許に登る、その（一日の）長さは、5万年である。
- 5.だからあなたは、立派に耐え忍べ。
- 6.本当にかれらは、それ（日）を遠いと思う。
- 7.しかしわれは、それを近いと見る。
- 8.天が溶けた銅のようになる日、
- 9.山々は、梳いた羊毛のようになり、
- 10.誰も友（の安否）を問うことはない。